

グリーンイノベーション基金事業における アウトカムの進捗状況

2025年9月

G Xグループ エネルギー・環境イノベーション戦略室

グリーンイノベーション基金事業の基本方針（概要）（1/2）

- 経済産業省は、基金事業における支援対象、成果を最大化するための仕組み及び実施体制等、各研究開発分野に共通して適用する事業実施に係る方針を「基本方針」として定める。事業の進捗を踏まえ、基本方針の内容は柔軟に見直す。

1 目的・概要

2050年カーボンニュートラルの実現に向け、**NEDOに2兆円の基金※**を造成し、**野心的な目標にコミットする企業等**に対して、**最長10年間、研究開発・実証から社会実装までを継続して支援**

※令和4年度第2次補正予算及び令和5年度当初予算において、それぞれ3000億円、4564億円を積み増しし、総額2兆7564億円となっている。

2 目標

(プロジェクト単位)
野心的な2030年目標等
(性能、コスト等)

基金事業全体で横断的に
・国際競争力
・実用化段階(TRL等)
・民間投資誘発額
等の指標をモニタリング

- CO₂削減効果
- 経済波及効果

3 支援対象

グリーン成長戦略において実行計画を策定している重点分野又は「GX 実現に向けた基本方針」に基づく今後の道行きが示されている主要分野であり、政策効果が大きく、社会実装までを見据えて長期間の継続支援が必要な領域に重点化して支援

- ✓ 従来の研究開発プロジェクトの平均規模（200億円）以上を目安
- ✓ 国による支援が短期間で十分なプロジェクトは対象外
- ✓ 社会実装までを担える、企業等の収益事業を行う者を主な実施主体（中小・ベンチャー企業の参画を促進、大学・研究機関の参画も想定）
- ✓ 国が委託するに足る革新的・基盤的な研究開発要素を含むことが必要

4 成果最大化に向けた仕組み

研究開発の成果を着実に社会実装へ繋げるため、企業等の経営者に対して、長期的な経営課題として粘り強く取り組むことへのコミットメントを求める

(企業等の経営者に求める取組)

- ・ 応募時の長期事業戦略ビジョンの提出
- ・ 経営者によるWGへの出席・説明
- ・ 取組状況を示すマネジメントシートの提出

(コミットメントを高める仕組みの導入)

- ① 取組状況が不十分な場合の事業中止・委託費の一部返還等
- ② 目標の達成度に応じて国がより多く負担できる制度（インセンティブ措置）の導入

グリーンイノベーション基金事業の基本方針（概要）（2/2）

5 事業を円滑かつ確実に実施するための措置

本基金事業における研究開発成果の技術流出防止のため、プロジェクト実施者に対して以下2点の対応を求める

（技術情報管理強化）

- ・「コア重要技術等」の特定
- ・「コア重要技術等」の流出防止
- ✓ アクセス管理
- ✓ アクセス可能な従業員の管理
- ✓ 取引先における管理

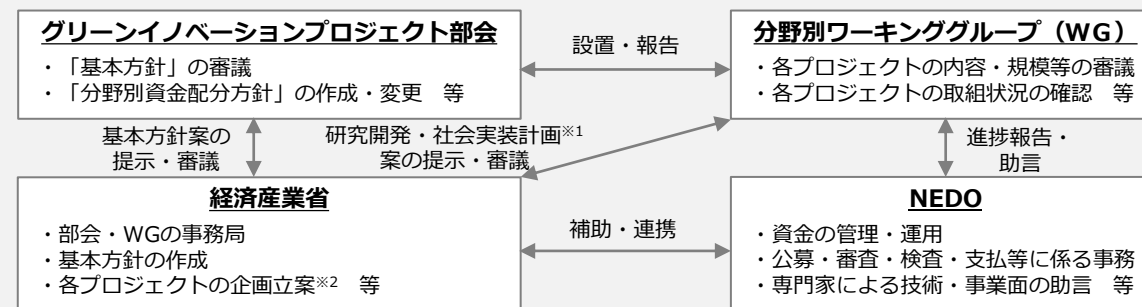
（技術移転防止（事前相談））

強制的な技術移転・流出のおそれがある場合であって、コア重要技術等について以下の行為を行う場合、担当省庁への事前相談を行う

- ・他者への知財権の移転、技術の移転、技術の提供
- ・他者との共同研究開発
- ・他国での研究開発
- ・他国での生産拠点建設・設備投資

6 実施体制

外部専門家の知見も取り入れ、関係機関が緊密に連携した、透明性・実効性の高いガバナンス体制を構築



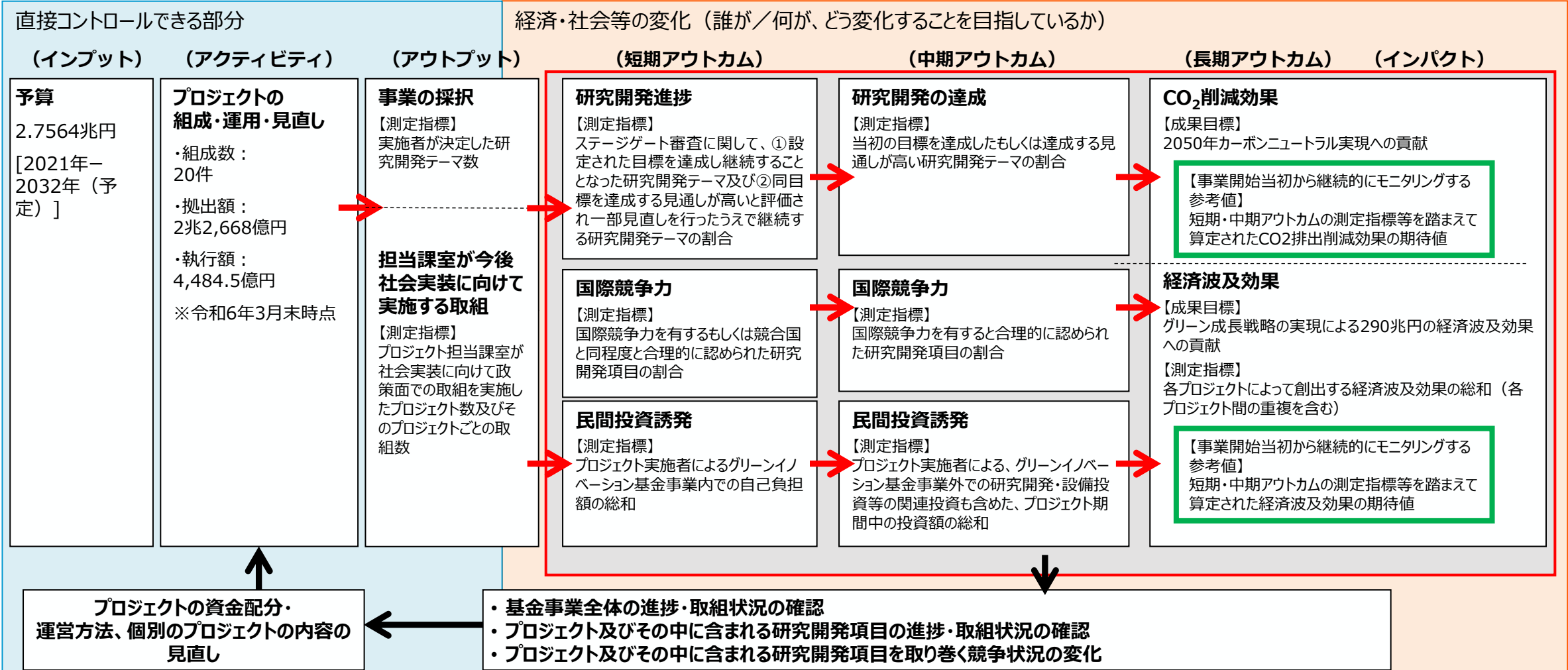
※1 プロジェクトの2030年目標等・研究開発項目・対象技術の成熟度（TRL等）・予算規模等を記載した計画書
※2 関係省庁のプロジェクト担当課室も含む

7 事業の流れ



本事業におけるロジックモデル

- 令和4年11月にロジックモデルを策定・公表。令和6年6月、令和7年9月に一部改定。
- 昨年度、短期アウトカムが目標年度を迎えたことから、効果測定を実施する。



※アウトカム及びインパクトにおける測定指標の考え方等については、EBPMセンター、外部専門家等の助言に基づき引き続き検討を進める。

短期アウトカム①「研究開発進捗」の進捗状況

【成果目標】 研究開発進捗

➤ 成果指標（測定指標）

- ステージゲート審査に関して、①設定された目標を達成し継続することとなった研究開発テーマ及び②同目標を達成する見通しが高いと評価され一部見直しを行ったうえで継続する研究開発テーマの割合

➤ 目標年度における成果実績

活動・成果目標と実績		2022年度	2023年度	目標年度 2024年度	2025年度
当初見込み/目標値（%）		-	-	90	-
活動実績/成果実績（%）		-	-	95	-
達成率（%）		-	-	105.6	-

➤ 実績／目標／見込みの根拠として用いた統計・データ名（出典）

- プロジェクト実施期間において、ステージゲート審査に関して、①設定された目標を達成し継続することとなった研究開発テーマ数及び②同目標を達成する見通しが高いと評価され一部見直しを行ったうえで継続する研究開発テーマ数により集計する。

短期アウトカム①「研究開発進捗」の進捗状況

※ 各プロジェクトのステージゲートの審査は、NEDOに設置する技術・社会実装推進委員会において実施しており、ステージゲートの審査の状況については、外部有識者によって構成されたWGにおいて、NEDOより報告される。また、WGにおいては、毎年度、各プロジェクト実施企業等の経営者との対話により取組状況を確認・評価している。

＜グリーン電力の普及促進等分野ワーキンググループにおけるモニタリングの状況＞

（当該WGが担当する3PJのうち、ステージゲートを実施したPJはなし）

https://www.meti.go.jp/shingikai/sankoshin/green_innovation/green_power/index.html

＜エネルギー構造転換分野ワーキンググループにおけるモニタリングの状況＞

（当該WGが担当する8PJのうち、7PJにおいてステージゲートを実施）

https://www.meti.go.jp/shingikai/sankoshin/green_innovation/energy_structure/index.html

＜産業構造転換分野ワーキンググループにおけるモニタリングの状況＞

（当該WGが担当する9PJのうち、5PJにおいてステージゲートを実施）

https://www.meti.go.jp/shingikai/sankoshin/green_innovation/industrial_restructuring/index.html

➤ 目標年度における効果測定に関する評価

- 目標を達成。

短期アウトカム②「国際競争力」の進捗状況

【成果目標】 国際競争力

- 成果指標（測定指標）
 - 国際競争力を有すると合理的に認められた研究開発項目の割合

➤ 目標年度における成果実績

活動・成果目標と実績		2022年度	2023年度	目標年度 2024年度	2025年度
	当初見込み/目標値（%）	-	-	90	-
	活動実績/成果実績（%）	-	-	64.2	-
	達成率（%）	-	-	71.3	-

短期アウトカム②「国際競争力」の進捗状況

➤ 実績／目標／見込みの根拠として用いた統計・データ名（出典）

- ・ プロジェクト期間の終了時点において、各種データの公開状況を踏まえ、各プロジェクト、研究開発項目の特性に合わせて、技術力の評価に適切な技術指標のうち、評価に用いる技術指標を決定し、各国の情報を調査・実施する。

※ 国際競争力のアウトカム指標については、実績値の算出を開始した今年度より、算出の単位を研究開発テーマから研究開発項目に変更した（P4 ロジックモデル参照）。理由としては、テーマで取り扱う技術分野の中には実データが国内外に存在せず判定不可となるものが多数存在することに加え、今後の絞り込みを前提に複数のテーマが互いに代替関係となっている分野が存在することから、テーマ単位よりも項目単位で判定を行う方が適切に効果検証を行えると考えられるため。

➤ 目標年度における効果測定に関する評価

- ・ 目標値に対し、約71%の達成度であった。国際競争力については、V（経済価値）、R（希少性）、I（模倣困難性）、O（組織）といった複数の観点で優位性の判定を行った（VRIO分析）が、特にV、Rについては、研究開発項目ごとに複数の技術指標を設定した上で優位性の判定を行ったところ、現時点においては競合国と比べて必ずしも優位と言える水準には達していないものも一定数あるとみられる。

短期アウトカム③「民間投資誘発」の進捗状況

【成果目標】 民間投資誘発

➤ 成果指標（測定指標）

- プロジェクト実施者によるグリーンイノベーション基金事業内での自己負担額の総和

➤ 目標年度における成果実績

活動・成果目標と実績		2022年度	2023年度	目標年度 2024年度	2025年度
	当初見込み/目標値（%）	-	-	1,200	-
	活動実績/成果実績（%）	-	-	1,268	-
	達成率（%）	-	-	105.7	-

➤ 実績／目標／見込みの根拠として用いた統計・データ名（出典）

- プロジェクト実施期間において、各プロジェクト実施者によるグリーンイノベーション基金事業内での自己負担額の実績に基づき集計する。

➤ 目標年度における効果測定に関する評価

- 目標を達成。

点検結果と改善の方向性

点検結果

- 「研究開発進捗」「国際競争力」「民間投資誘発」における効果に関する点検結果は、「目標年度における効果測定に関する評価」に記載の通り。

目標年度における効果測定に関する評価

- 短期アウトカム①「研究開発進捗」、短期アウトカム③「民間投資誘発」について、短期の測定指標は目標を達成した。（P6,P9再掲）
- 短期アウトカム②「国際競争力」は目標値に対し、約71%の達成度であった。国際競争力については、V（経済価値）、R（希少性）、I（模倣困難性）、O（組織）といった複数の観点で優位性の判定を行った（VRIO分析）が、特にV、Rについては、研究開発項目ごとに複数の技術指標を設定した上で優位性の判定を行ったところ、現時点においては競合国と比べて必ずしも優位と言える水準には達していないものも一定数あるとみられる。（P7再掲）

改善の方向性

- 短期アウトカム①「研究開発進捗」については、ステージゲートにおいて適切な評価を実施していく。
- 短期アウトカム②「国際競争力」については、NEDOのステージゲート審査においては「技術開発の進捗面」、METIの分野別WGでは「経営者のコミットメント状況」の確認を引き続き行うとともに、VRIO分析の際に設定した技術指標も念頭におきながら、事業の進捗を確認していく。その際、プロジェクト毎に最新の国際動向も確認しながら進めていく。
- 短期アウトカム③「民間投資誘発」については、事業戦略ビジョンにより確認していく。